

鹿市医狂壇



554 樋口 一風 選

兼題「不自由（せんぼ）」

天

伊敷支部 谷山五郎猫

不自由でん生活ちや楽し医者人生

(唱) 仁術じゃつち人生ゆ悟つ

(評) この句は人間の命を預かるとゆう、職業についておられる、お医者さんの自負と悟りであろうと思います。

生活の質は、本人の価値観の問題でしょうが。時間的に突然性のある職業に、不自由な生き方をしなければならぬ生活を、「不自由でん生活ちや楽し」と喝破しておられて頭が下がります。

「せんぼ」とは室町時代の言葉で、(センプウ) 千方の方策が尽きた意から(都城方言辞典より)ということ。

薩摩狂句鑑賞 192

薩摩狂句曆

三条風雲児著 から

(平成元年五月一日発行)

出し惜しゆだ寄付い男鉤が暴れ込つ

境 戸緒流

鹿屋市高隈の中津神社では、上高隈と下高隈に分かれて、「かつ引つ」と言う祭りがあつた。

このかぎは、高隈山から伐り出してくる樺や榎の大木で、途中、お酒の入った青年たちが、寄付のない商店などには、わざと枝を引っかけながら運ぶと言う、茶目つ気な祭りである。

男かぎと女かぎが向き合つと、「もう一尺出せ」「そつちが前だせ」と、中央線をはさんでの交渉が続くが、かぎをかけると、見物人も加わつて、あつという間に勝負がついてしまふ。

蜜蜂も緑の羽根い羽慣らし

中原 喜美子

緑の羽根募金が始まる頃になると、柳の芽などぐんぐんふくらんでくるし、フキのとうや、ツクシが頭をもたげてきて、そこまで春がきているという感じが強くなるものである。

地

南紫支部 二軒茶屋電停

こん子供が不自由せんごつ精励つ

(唱) 可愛か寝顔い奮れ立つ親父

(評) 父さんも時々には生き甲斐を失つたり、疲れて怠けたくなる時もあるでしょう、その時の処方箋です。子供は自分勝手に生まれた訳ではないので、子育ては親の責任、それを詠んだ句。

そう言われても、仕事の悩みや様々な人間関係などで疲れることもあり。子供は宝と言いますが、無邪気な子供の寝顔は、疲れた親には特効薬かも。良い句でした。

人

上町支部 吉野なでしこ

気は忙つてぎつくり腰で凄ぜ不自由

(唱) そろいそろいと突張つ歩つ

(評) お医者さんでもぎつくり腰になるのだなと分かりました。食事している時、床に落ちた箸を拾おうとして、ぎつくり腰になったことがあります。随分若いころの話ですが、あれば痛くて不自由だったと思ひ出しました。

べつに拘束されているわけではないし、他の部位は異常は無いから何気なく作業をしていて、ある角度に曲げたりすると、ピツと来てで困つたような記憶があります。

ながい冬の間、とじこめられていた蜜蜂も、「さあ、春が来るぞ」と巣箱の中で羽を動かして、ウォーミングアップをしているわけである。

薩摩狂句誌「洪柿」八五八号 雑吟から

(令和八年一月一日発行)

孫叱いな覚悟が要つた優し婆

(唱) 涙を呑んで厳しゆ仕付けつ

九十歳婆が似合け地味けち返事し困つ

(唱) 幾ちなつてん婆様も女

股張いの膏薬か相槌打ち忙し態

(唱) 間違ごたぎいな両方没ちなつ

一年忌乾れつきた頃れ新け涙

(唱) 忘れちよつてんひよかつ思め出つ

熱弁家の熱が入い程客欠伸

(唱) 大声ん割いな意味は分からし

秀逸

紫南支部 加治屋犬好

老人じえなつ五体が叶わじ不自由しつ

(唱) シャツのボタンぬ掛けかて難儀

上町支部 吉野なでしこ
帯ぶ締めつしやいしやないな凄ぜ不自由
(唱) 帰衣着た時きや大変い疲れつ

紫南支部 脇田がさ医者
待合で不自由な友達と長話
(唱) 口が纏れつものが言難きち

伊敷支部 谷山五郎猫
あと少と我慢ろ不自由な空ん旅
(唱) 両方ん座席き肥満がゆたつ

市立病院支部 上荒田三十郎
ITは無どん不自由あせん昔
(唱) 昔しやそしこで暮らしがけ済ん

佳作

伊敷支部 谷山五郎猫

健康診断に不自由な暮らす思われつ

満留 ぐみ
(唱) 百年持とち油を注せつ

井上 三ちゃん
秋どんな茶一杯飲まじはつ去たつ
(唱) 夏が過ぎたや直ちき真冬

伊地知 孝
支持率が上がればすそな総選挙
多け孫い算筒預金も底を突つ
義理の賀状出さんて来れば嬉しゆなつ

狂句募集

◎4号 題吟「も一度(もいっど)」
締切 令和8年3月6日(金)
◎5号 題吟「全部(すつぱこ)」
締切 令和8年4月6日(月)
◇選者 樋口 一風
◇漢字のわからない時は、カナで書いてご応募ください。選者が適宜漢字をあてさせていただきます。
◇応募先 千八九二一〇八四六
鹿児島市加治屋町三番一〇号
鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係
TEL 〇九九一三二六三三七
FAX 〇九九一三二五〇九九
E-mail: ihou@city.kagoshima.med.or.jp